

デンソー山岳部 2014年度 冬山合宿報告書

■山域 中央アルプス 木曽駒ヶ岳

■日程 平成26年12月27日～12月29日

■メンバー 吉田明和(CL) 方田智貴(SL、記録) 神戸和広(SL、装備) 小田修三(記録)
谷川圭介(食糧、気象) 春口昴輝(会計、記録)
亀山誠 津田廣一 町田修 金子清 藤田勝啓

■ルート



第1日 : 12/27(土) 晴れ 歩行=6H30M

【行動記録】 刈谷本社駐車場(5:00)⇒登山口駐車場(8:50)⇒敬神ノ滝小屋(9:55)
⇒4合目(11:15)⇒一本(12:20)⇒金懸小屋(13:05)⇒六合目(14:20)ーテン場(15:20)

朝5:00に刈谷本社駐車場に集合しそこから移動。登山口駐車場に到着すると既にかなり寒い。冬山にきたなあとしみじみ感じ、気合が入る。当初の予定では、初日は金懸小屋までなのでかなり余裕がある。歩き出すとやはり荷物が重いこともありすぐに体が暖まってくる。トレースも結構しっかりと付いており、当初予想していたほどのラッセルにはならず快適に登っていくことができた。先輩方がこのルートにトレースがあることに驚いていたのが印象的であった。4合目辺りで吉田CLがアタック日に天候が荒れることが予想されるため、アタック日を1日早めることを決めた。そのために初日に距離を稼ぐことになった。しかし、流石に8合目まで行くにはいささか時間が足りない状況である。そこで地図を広げて、尾根上にテントを晴れそうな所がないか、いくつかのポイントに狙いをつけ登っていく。金懸小屋はトイレもあり非常に綺麗であったがそのまま通過。いつか時間のあるときにゆっくりと訪れたい。胸突八丁、らくだの背を越えて2230m付近に狙い通りV8とエスペースジャンボが張れるほどのスペースを発見し、幕営した。吉田CLと相談しここをベースキャンプとして明日、木曽駒ヶ岳にアタックしようということになった。テントの中の食事は谷川さんがすき焼きを用意してくれた。これが非常においしかった。だれかが「山のほうがおいしいものが食べられる。」と言っていたが、独身の自分も全く同感である。持ち上げた食材とお酒を頂きながら明日の木曽駒ヶ岳、宝剣に思いを馳せた。(記:小田)

第2日 : 12/28(日) 晴れ 歩行=8H30M

【行動記録】 起床(3:00) — テン場(4:50) — 7合目(5:20) — 8合目 1本(6:55)
— ピッケル準備/ストックデポ(7:40) — アイゼン装着(8:10) — 9合目 1本(9:10) — 駒ヶ岳山頂(10:10)
— 1本[アイゼン脱着](11:40) — テン場(13:20) — 就寝(21:00)

気温はそれほど低くなく風も無かった為、夜は快適に眠れた。朝食のうどんには前日のすきやき汁を使い、美味しく頂いた。山頂アタック当日は天候に恵まれ、なによりも前日に比べ荷物が軽くなったため、快適に足を進める事が出来た。雪道にはトレースがついていてわかりやすく、先頭ラッセルも若手を中心に1人30-40分程で回せた。自身は、20代なりに出来るだけ長く先頭を歩いた。終えた後のメンバの「お疲れ様」の声かけが嬉しかった。8合目付近では、御嶽山の朝焼けにうっとりしながら進んだ。



御嶽山の朝焼け

9合目に差し掛かる直前、雪道が固くなったためピッケル・アイゼンを装着。ストックは、その場に置いて行った。歩き始め、吉田CLの注意により、自身の靴とアイゼンに隙間があることに気付く。見ると靴底に雪の固まりが付いており、一旦アイゼンを外しピッケルで取り除いた後、着け直した。CLに感謝。同時にメンバの観察・異常察知できる能力(余裕?)を持てるようになりたいと思った。その後、片方のグローブが飛んでくハプニングに少し気を落としたが、宝剣岳・三ノ沢岳を見て切り替え、両足のアイゼンを引っ掛けずに慎重に進んだ。9合目の休憩では、谷川氏のレモンティを頂いて心と体を癒し温めた。そうして歩き始め約5時間後、ようやく頂上へ。メンバと握手を交わり、絶景を楽しんだ。風も強くなく、心地良い環境で乗鞍岳や南アルプスの山々を拝むことができた。その後、集合写真・個人撮影をバッチリ済ませ、テン場へ戻る。

宝剣岳山頂は、時間の都合で次回のお楽しみとなった。

アイゼンの爪・ピッケルをしっかり効かせ、来た道を安全に下った。アイゼンは装着した場所で外し、ストックを回収。後ろを振り返ると、山頂はいつのまにか雲に包まれており、登頂したタイミングの良さに笑みがこぼれた。お昼過ぎには、テン場へ到着。テントの中で宴会を始めた。一本目のビールが最高に美味しかった。夜は谷川氏の特製ホイコーロー(メンバ絶賛)を美味しく頂いた。その後、山行の感想をメンバで発表し合い、最後に歌集歌合戦を行った。普段聞けないメンバの美しい歌声を聴けて、とても楽しい一夜となった。(記:春口)



駒ヶ岳山頂

第3日 : 12/29(月) 雪/小雨

【行動記録】 歩行=6H15M

起床(4:00)-出発(6:45)-1本(8:00)-5合目1本(9:45)-4合1本(11:10)-駐車場(13:00)
-木曾路館[入浴、食事]-刈谷(18:00)

前日の夜から降り始めた雪が降り続き、テントの裾を十分に覆い尽くすほど雪が積もる中、起床。テントの撤収に苦労し、額に汗がにじむ。前日まであったトレースも一面の銀色の世界で、影も形もない。リーダーの指示でトレースを探しに偵察に行くが、全くわからないため、方向を地図と磁石で定め下山開始。積雪は50cm程度あり、途中ワカンを装備。その際、リーダーが今回山行のテーマとした若手主体を意識した『若手のみワカン』との指示がある。もちろん、ラッセルも若手のみで行う。5合目金懸小屋後のトラバースで、今回初のザイルを使う。危険レベルが高いわけではないが、合宿の名の



もと、トレーニングを兼ねた選択である。平地合宿で習ったインクノット、八の字を思い出してトライするが時間がかかる。人数も多い為、厳しい環境ではないが、寒さが堪える。樹林帯の中のルート取りは難しく、小田君の指示を貰いながらラッセルを進める。足跡がない雪面に自身の足跡をつけること、そして、目印のない中を進む中で、標識、あるいは、赤布があると『方向はあっていったんだ』とニヤリとしながら、なんとか下山。登山口から駐車場までも長い登りが続く。これまで後方で遠慮していたベテラン組がサクサク若手を追い越し駐車場に到着する。なんともベテラン組の体力には感服する。

登山口あたりで雪は止み、小雨がパラパラ。今回山行の全般的な気象をサポートしていただいたDN山岳部の大矢予報官の予報と総合して計画を修正した吉田リーダーのお蔭で、天気にも恵まれ、無事下山できたことに感謝。感謝。

冷えた体と空腹を満たすため、偵察時に利用したひのき喫茶に向かうが、営業しておらず、向かいの木曽路館で3日間の疲れを癒す。（記：方田）

<装備所見 神戸>

今回新品のV8テントが快適であろうと思った。が、実際は内張りとフライを装着したエスペースジャンボの方が暖かかったようだ。事前に内張りをセットしたのも良かった。古いものでもメンテすることで快適に使えることを知った。今回の装備リストでは旧来のものを踏襲したが、ガソリンバーナーを使わなくなった為、「メタ」は不要、「燃料の計算式」もガス缶(L=460gMax)に合わせる必要あった。またアマチュア無線を止めて、351MHzのデジタル簡易無線を14年春から使用しての感想は、長く伸びた隊列の前後で使用するには十分で、満充電しておけば3日は持つことが分った。また緊急連絡用としてどうか、一般利用者がチャンネルを使っているのは分ったが、果たして協力を仰げるかという課題はある。全員が簡単に使えるのだから無線機の講習も事前にすべきだったかと思う。

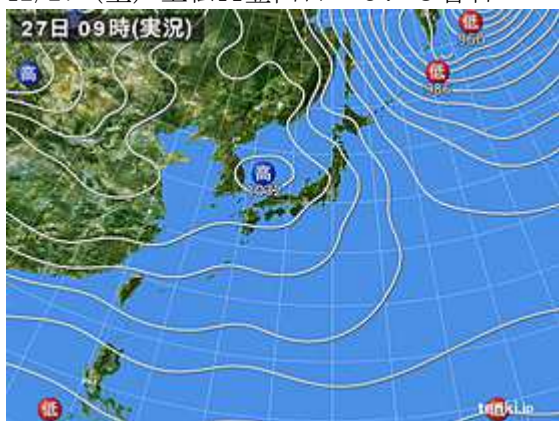
<食糧所見 谷川>

日付	12/27(土)	12/28(日)	12/29(月)	12/30(火)	12/31(水)
朝食	各自	すき煮風うどん (麺8個、白菜1/4)	ラーメン(麺8個)	雑煮	
昼食	各自	各自	各自	予備 各自	
夕食	・すきやき(肉1kg、白菜3/4、つゆ500cc、砂糖、しょうゆ少々) ・ごはん(0.6号/人)	・ホイコーロ(肉800g、キャベツ1個、ピーマン8個) ・ごはん ・わかめスープ	・各種レトルト ・ごはん ・海藻サラダ		
その他	おつまみ・コーヒー・お茶・コンデンスミルク等				

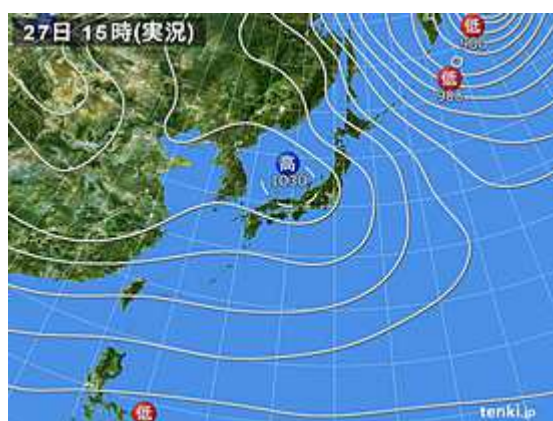
- ・冬ならではのメニューとして、すきやき企画した。11人分の野菜・肉・調味料は、5kgにもなり、初日夜とした（荷揚げメンバーご苦労様でした）。めんつゆを使って味が出せるか自信が無かったが、十分おいしく出来た。
- ・翌日のうどんは、すきやきの残り汁を利用したすき煮風うどん、くどいかと思ったが、冷凍讃岐うどんがおいしく、これも成功した。
- ・ホイコーロは予め、肉・野菜を湯通しして持って行ったので、手軽に作る事ができた。味はまあまあ。
- ・ラーメンはインスタント麺だったが、時間とともに麺が吸水して、スープが無くなってしまい、失敗した。水は多めの鉄則を忘れていた。なお、うどんもだが、麺8個/11人は少なめだった。

<気象報告 谷川>

12/27(土) 上松A登山口→6.5合目



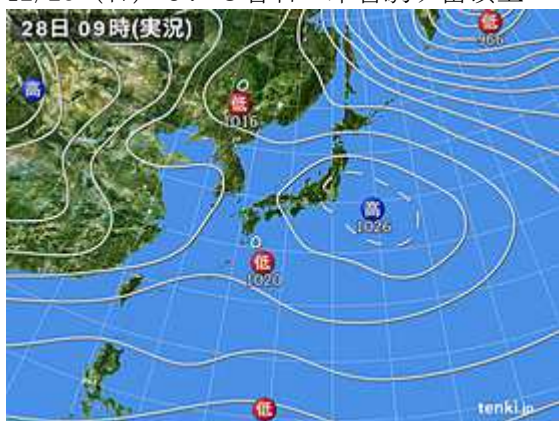
登山口/晴れ -7°C 微風



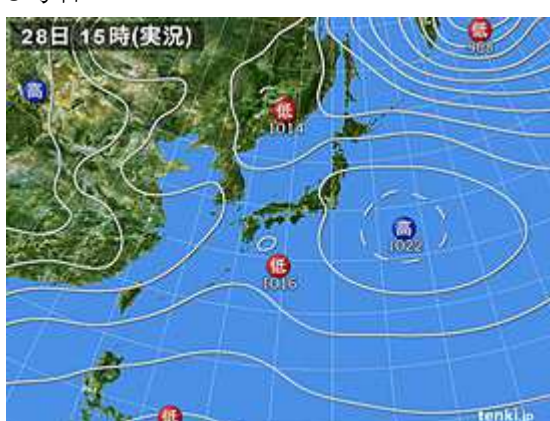
6.5合目/晴れ -10°C 微風

日本付近を移動性高気圧が進んできて冬型気圧配置は緩み、前日の雲は次第に晴れ、風は無し。

12/28(日) 6.5合目→木曾駒ヶ岳頂上→6.5号目



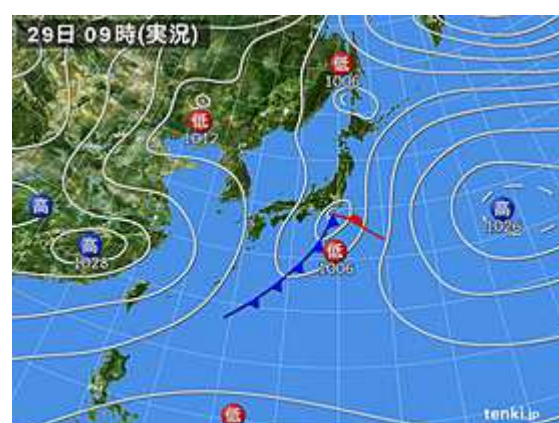
9合目/晴れ -12°C 風16m



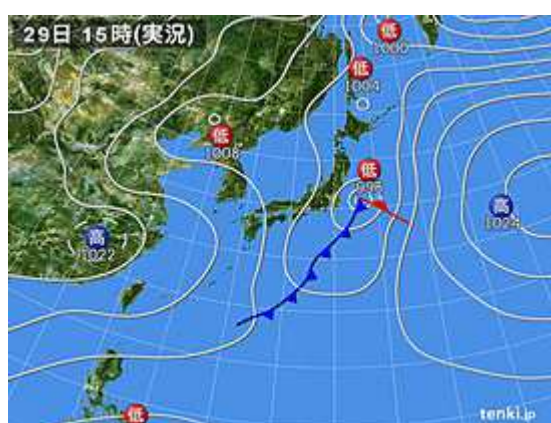
6.5号目/晴れ～曇り -7°C 微風

東シナ海の低気圧が九州南岸に進み、日中は晴れたが、夕方より雲が広がり、夜中には降雪約30cmでトレースが消えてしまう。風は8合目以上で出始め、それ以下では微風。

12/29(月) 6.5合目→上松A登山口



5合目/小雪 -7°C 微風



下山後/小雨

低気圧は本州南岸を発達しながら東北東に進み、低気圧通過前は南から暖気が入るため気温が上がり、午後遅く冬型気圧配置に移行。終始小雪がちらつき、登山口以降では雨交じりの天気。

<会計報告>

収入		支出	
会費 ¥4,500×11名	¥49,500	高速・ガソリン代	¥32,900
		食料	¥16,600
合計	¥49,500	合計	¥49,500

※不破さん 差し入れ(柿安 しぐれ)有難うございます。

<リーダー所見 吉田>

天気の良い2日目に木曾駒ヶ岳に登頂できるよう、初日のテント場をどうするか、神戸SL、方田SL、小田さんからアドバイスを頂き、七合目手前で幕営した。結果的に、晴天の中で木曾駒ヶ岳に登頂できた。下山日は未明の積雪によりラッセル、ザイルを使用することになり、やりたかった実地での雪上訓練ができた。

今回は登山条件が良かったため大きな課題は顕在化しなかった。悪条件でも安全登山ができるよう雪上での技術・体力向上に部として継続的に努めてゆきたい。

<感想>

宝剣岳には今回行かなかったが、もし、木曾駒ヶ岳山頂で、行きたい人は行くぞと言われたら参加しただろうか考える。体力も限界近く、寒く、宝剣直前には厳しい関所が待っていると思うと、断念した気がする。ただ、行ってみたかったという後悔を残しつつ、やはり、さらなる高みには行くためには、体力と経験が必要だと感じる。特に冬山は、平地では感じる事ができない厳しさや素晴らしさを与えてくれる。山に感謝。感謝。【方田】

おそらく私が参加できる冬山合宿では今後無いであろう絶好の天候に2日間恵まれて、第一目標の木曾駒ヶ岳は登頂できた。皆さんのおかげです。上部でのアイゼン歩行では軽い荷物に助けられて、14年春の白山に比べれば楽に歩行できた。3日目の新雪ラッセルでは下りだったが、全く歯が立たない場面もあり、さらに精進が必要と感じた。またSLとしては方田君のパワーに助けられた面とペース配分に行き届かない点あり反省である。今後は隊全体を見渡して、考えての行動をしなくてはと思う。【神戸】

2度目の冬山合宿で、冬のテント山行に慣れてきたものの、食料担当としては初めてで失敗もありました。次回の食料担当では、レベルアップを図りたいです。今回、荒れた天候を避けた計画変更で冬山の美しい景観に出会えた事、仲間としてテント宴会と山の歌合唱、自分も若手?として先頭を歩くなど、素晴らしい山行を経験させてもらったメンバー各位に感謝します。【谷川】

初の冬山合宿は、天候とメンバーに恵まれて良い思い出になりました。久々の雪山で荷物も重く、序盤にストックが折れるというアクシデントに見舞われながらも、メンバーのサポートのおかげで頂上まで無事に辿り着くことができ、景色も楽しめました。次回はもう少し余裕ができるよう、山での体力・スキルを身に付けます。【春口】

素晴らしい天候の中、木曾駒ヶ岳の山頂に立つことができ非常に充実した山行でした。鋭く天に向かって宝剣山にチャレンジすることができなかつたことは若干心残りではあるが、その姿は自分に再度の挑戦を誓わせるに十分であった。今回も非常に楽しい山行でした。同行メンバーに感謝。ありがとうございました。【小田】

CL、SL、はじめ、みなさんお疲れさまでした。若手の参加と成長に山頂を目前にしたころ涙腺がゆるみました。皆さんに感謝!【亀山】

久しぶりに上松尾根から登りました。入山前は大雪の影響でラッセルを想定していましたが、好天に恵まれ順調に登頂することができました。今回は若手?メンバーが終始ルートファインディングを行い、

良い経験が出来たと思います。テント生活も皆さんのお陰で楽しい時間でした。
ありがとうございました。【金子】

若手の先行者に必死について行くも、特に登りとなると苦しくて、年齢を再実感した冬合宿でした。
しかし、天候に恵まれ、快晴の木曾駒頂上へ立つ事ができ、感無量の山行でした。
テントの中でも、美味しい鍋を頂き、周りを気にせずに久しぶりに山の歌も楽しめた最高の山だった
と思います。ありがとう！【津田】

上松尾根は雪上訓練で何回も登った勝手知ったる登山道だ。久しぶりに深雪のラッセルを期待したが、
先行者のトレースが有り、苦勞なく登頂した。木曾駒頂上では青空に映える御嶽、乗鞍、北ア、南アの大
パノラマを満喫できた。下山は前夜に積雪があったが、若手が頑張ってルートを拓いてくれた。一日早
くの下山になったが、天候悪化を考えるとリーダーの良い判断だった。【藤田】

CL吉田の天気予報を先取りした采配が的を得、晴天の駒ヶ岳に全員登頂できた。行動は現役若手が主
導し、クラブの山行パターンが大きく変わる兆しを感じた。今年も元気で合宿に参加できたことをうれし
く思います。【町田】